

コース18 ぼんだいさん 磐梯山

リーダー CL M/I SL M/N, K/H
 実施日 令和元年6月5日(水)
 天候 曇りのち雨 グレード B上~C
 参加者 37人(男性13 女性24)
 コースポイント

銅沼からの
磐梯山



ポイント	到着時間	出発時間	備考
秋葉区役所前		6:30	新津駅西口9名乗車
八方台登山口	8:40	8:50	道の駅ばんだいで登山装備
中ノ湯跡	9:20	9:25	硫黄の匂い漂う
弘法清水	10:55	11:05	
磐梯山山頂 1,816m	11:35	12:20	集合写真・昼食
弘法清水	12:45		花畑コース経由で下山
裏磐梯スキー場分岐	13:40		階段が多く結構激下り
銅沼	15:05	15:10	
裏磐梯スキー場P	15:35	15:50	バス乗車と同時に降雨
秋葉区役所前	18:20		

山行等概要(幹事のコメント)

- 午後から雨マークが付いたが、風・雨共に弱く、なんとか山頂に立つまでは大丈夫そうだと判断し山行を決行した。(下山中降ってきたらコース変更あり。)
- 37名の大行列。SL2名を中間とラストに配置した。
- 平日で天気予報が悪いせいか登山者が少なく、気を使わずに歩くことができた。
- お1人弘法清水に残ったが、36名は快調に山頂に立った。山頂はほぼ貸切状態であった。飯豊や吾妻連峰など遠方の眺望は望めなかったが、眼下の猪苗代湖・桧原湖、近隣の山は見えた。雲行きが怪しくなってひんやりしてきたので下山開始。
- 中ノ湯跡手前から裏磐梯スキー場コースに入り下山する。このコースを利用する人は少ない。登山道は整備されているが結構激下りが続く。銅沼までは鬱蒼とした森の中、1人では歩きたくない深淵とした静かさである。
- 銅沼から見える爆裂生々しい磐梯山の景色を皆さんに見ていただきたいとこのコースを選んだが、空が暗くなってきて遠雷と雨足が近づいてきたので沼を横目に見て早々に先を急いだ。
- グレンデの下にバスが見えてほっとした。もう隊列関係なくさっささっさとグレンデを下りる。
- 靴履き替え、バスに乗ったところで雨参上。良かった良かった、万歳?



会津の名峰 磐梯山

1667 K/T

梅雨前の快晴・高温続きの毎日もそろそろ終わりかという6月5日、会津の名峰磐梯山に登ることができた。その土地土地に「我がこころの山」というのがあるのだろうけれど、会津の人にとって磐梯山は間違いなく「私の故郷の山」なのだろうと思う。

朝6時半、総勢37名を乗せたバスは磐越道を現地に向けて出発。晴れてはいるが何となく湿った空気が上空に入ってきているようで、遠くが霞んでいる。いかにも梅雨入り間近である。皆さん、午後からの雷を心配している。

「とっとと登ってとっとと降りてきたい」などと思ってしまう。しかし8時半に八方台登山口駐車場に到着すると、木々の若葉の緑色、春ゼミのけたたましいまでの鳴き声、他県ナンバーの車に「わあ、山に来たぞ〜」とワクワク感が高まる。

登り始めは気持ちの良いブナ林。傾斜もゆるくウォーミングアップに最適だった。春ゼミも絶好調とばかり声を張り上げている。カッコも鳴いている。初夏だ。そのまましばらく行くと中の湯跡という湯治場跡に着いた。硫黄の臭いもする。ここからが登り開始。がんばりどころの1時間10分ちょっと。

汗も出てくるが、高度を上げるにつれ眼下には裏磐梯方面の景色が広がる。

緑、緑、緑の中に檜原湖がある。その向こうは吾妻連峰のはずだが、今日は視界が今ひとつ。猫魔や裏磐梯のスキー場のゲレンデがまるでトラ刈り頭のような。そして崩落して赤茶けた斜面がむき出しになっている恐ろしい山容に驚く。1888年の大噴火からまだ131年しかたっていない活火山である。

さて弘法清水での小休止の後、ひと頑張りして11時半過ぎに山頂に到着。

アブのような虫がぶんぶん飛んで、ほっぺたにぶつかってきた。猪苗代湖と会津盆地が見渡せる。まさに360度の眺望に大満足。ところが集合写真を撮り終わりこれから昼食だという頃、遠くにゴロゴロという音が。吾妻連峰方面は何だか怪しい黒雲に覆われている。さあ、こうなると長居は無用だ。さっさとお昼を食べて下山するに限る。12時半前には下山を開始した。雷鳴が近づい



新緑の中を進む



中の湯



最後の登りにリーダーが激



裏磐梯スキー場

ては来ないが、音の間隔は短くなっていく。時々ひんやりした空気を感じる。大気が不安定になってきている。そんな不安な気持ちをお花畑の可憐な花々が「ダイジョウブ」と励ましてくれるようだ。(今日は「ミヤマキンバイ」を覚えました。)右手に山体崩壊の大斜面を眺めながら淡々と下山し、裏磐梯スキー場を目指す。このルートは登山者数が少ないようで、自然の気(?)が満ちているようなちょっと不思議な雰囲気のある道だった。途中銅沼(あかぬま)に立ち寄る。

神秘的な絶景であったが、午後の3時前には薄暗く、さっさと立ち去った方がいいような場所のように感じた。(異界への入り口?)

その後は足に疲れを覚えつつもクライマーズハイならぬ「クダリマーズハイ」状態でスキー場ゲレンデをすたこらさささと下る。いったん持ち直したような空模様だったが、急激に暗くなっていく。雨が迫ってきた。そしてバスに到着すると同時に横なぐりの雨が降ってきた!(夜のニュースで、この時間帯に福島県や山形県で雷が混じった雷雨だったと知る。)ほっとしたが、私たちが下りの途中ですれ違った東京からのご夫婦は大丈夫かなと思った。

いい山だった。山頂から猪苗代湖を見下ろし、会津盆地の向こうは郡山のある中通り、そして阿武隈山地とその先に浜通り、南相馬の海があると思った。

参加人数の多い中、リーダーさん、サブリーダーさん、班長さん、ありがとうございました。安全に、楽しく行って来ることができました。ありがとうございました。まただんだんと顔なじみの方が増えてきて嬉しいです。



ミネサクラ



レンゲツツジ



ミヤマカタバミ



ミツバツツジ



ミヤマキンバイ



サンカヨウ



イワハタザオ



ズタヤクシュ



ツバメオモト